

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	みやのうらぎょこうにしぼうはていさいがいふっきゅうこうじにおけるかいりようふっきゅう
1. 事業(施策)の名称	宮ノ浦漁港西防波堤災害復旧工事における改良復旧
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和4年2月16日 ～ 令和6年7月23日
3. 事業費(工事費)	2,281 百万円
4. キーワード	防波堤 災害復旧事業 災害関連事業
5. 事業概要	
長崎県平戸市の宮ノ浦漁港において、令和3年9月の台風 14 号の暴風・波浪により西防波堤 120mが被災を受けた。そこで、被災波相当の現況波を復旧する設計対象波として、被災区間と同一断面の未被災区間 60mと合わせて 180mにて改良復旧を行い、災害復旧事業と災害関連事業を活用して一体的な強化を図るとともに、資材の再利用による工事費の低減や新技術等を活用して作業の効率化を図った。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(e)その他 () () ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(b)コストの縮減 (k)施工の合理化・効率化 () ()	() () () ()

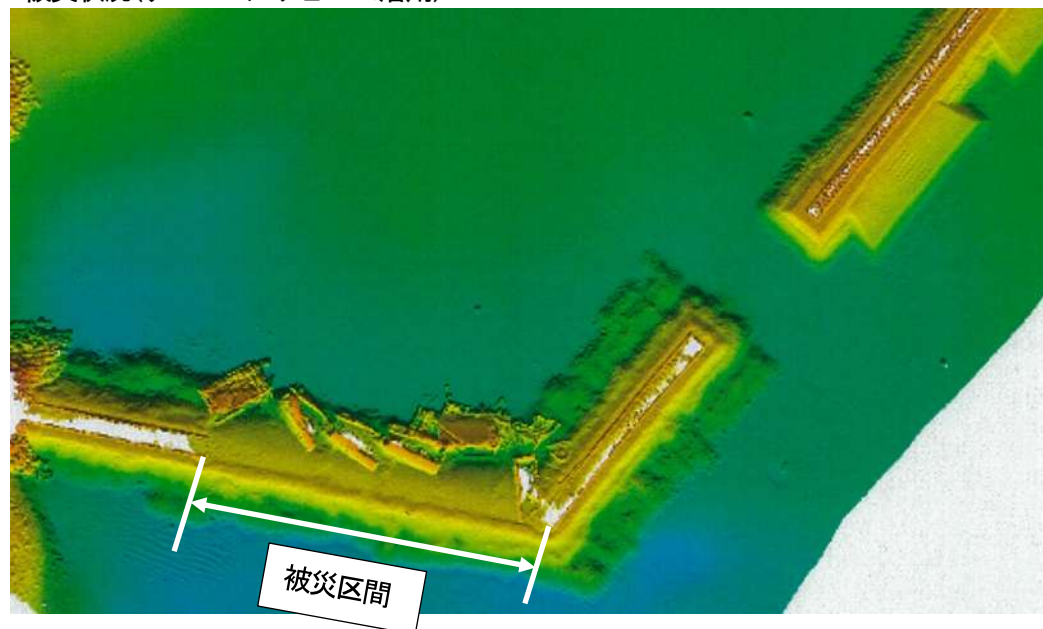
7. 特にアピールしたい点
復旧に先立ち、被災状況を正確かつ迅速に把握し適正な復旧断面を作成するために、水中部の調査にはナローマルチビームを用いた深淺測量と潜水土による目視調査を併用することで、現地の詳細かつ正確な被災状況を迅速に把握することができた。 復旧にあたっては、被災したケーソンを撤去する必要があるが、既設ケーソンの中詰め砂の一部再利用と既設ケーソンの上部工(無筋コンクリート)を細かく破碎して、新規ケーソンの中詰め材として再利用することでコスト縮減を図った。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

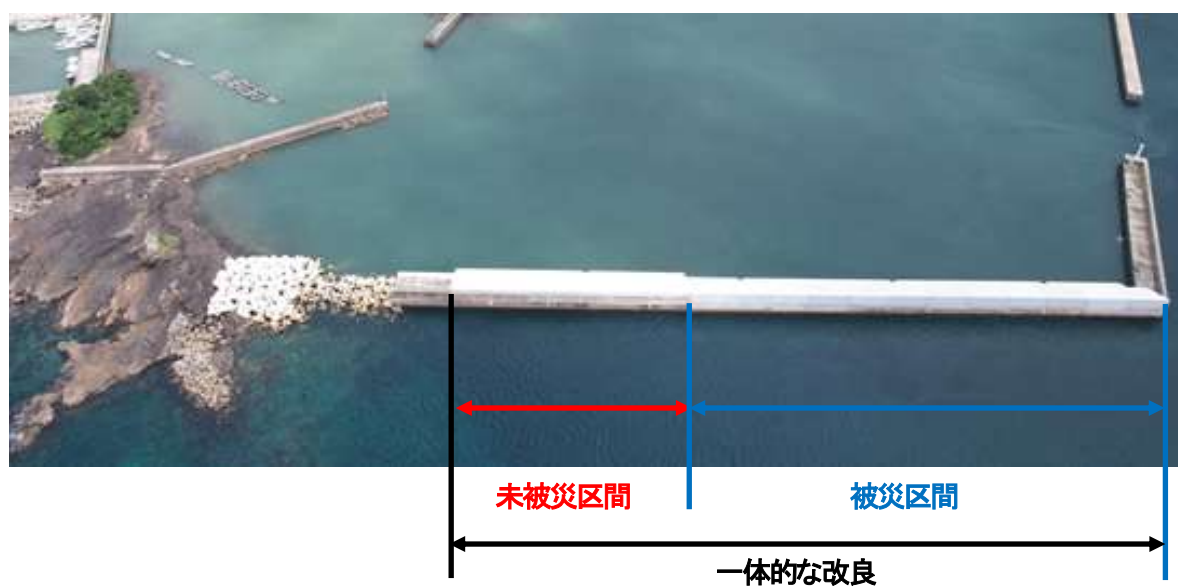
・被災状況



・被災状況(ナローマルチビーム活用)



・復旧状況



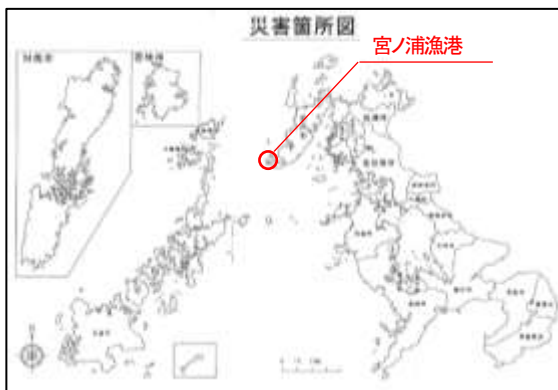
9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

宮ノ浦漁港は長崎県平戸市に位置する第2種漁港であり、平戸市有数の陸揚金額を誇る生産拠点漁港である。西防波堤は、平成10年から平成16年にかけて整備され、港内の静穏度を確保するための大きな役割を果たす第一線防波堤であるが、令和3年9月の台風14号の来襲でケーソン式断面区間180mの2/3にあたる120m(6函)が港内側に大きく滑動したことで、沈下・傾斜や転倒などの被害が生じた。

地元漁船の安全航行や港内静穏度を早期に確保するために災害復旧を行うとともに設置当時を大きく上回る被災波が確認され、再度災害の防止を図る観点から、災害関連事業を活用して、被災箇所と未被災箇所を一体的に改良することにより強化を図った。

具体的には、災害復旧事業と災害関連事業のアロケーションにより、被災波に相当する現況の設計波を用いて、被災区間については、新規ケーソン6函の設置による改良復旧、被災区間と同一断面の未被災区間60mについては、港内側に腹付け拡幅する改良復旧を行い、合わせて基礎の被覆ブロックを新設することで粘り強い構造とした。

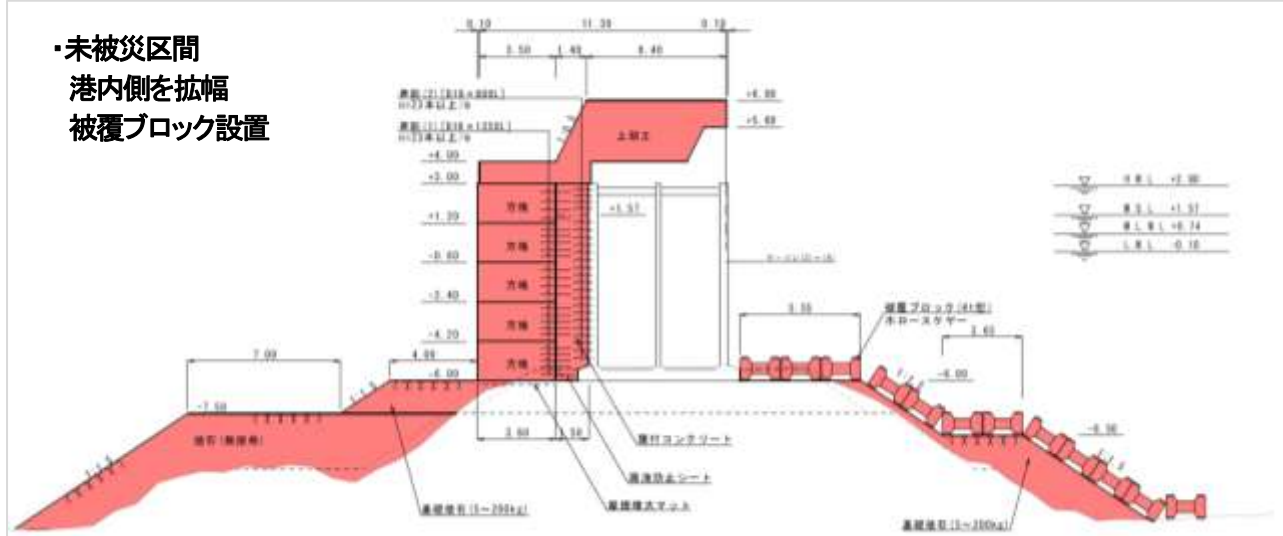
復旧に先立ち、水中部にてナローマルチビームと潜水士により被災状況を確認し、現地の状況を正確かつ迅速に把握することで作業の効率化を図るとともに、今回の復旧では撤去が必要となるケーソン資材の一部を再利用してコスト縮減を図った。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕



- ・未被災区間
港内側を拡幅
被覆ブロック設置



- ・被災区間
ケーソンを大型化して設置
被覆ブロック設置

既設ケーソンの撤去資材を再利用

